

たいよう

第1学年 学年だより
No 7
平成24年5月12日(土)

第1回目の学校公開 ご参観ありがとうございました。子どもたちの体の疲労を心配しましたが、どの子ども「見てもらいたい」という気持ちいっぱい、がんばっていました。アンケートをお配りしますので、ご記入お願いします。月曜日から、また元気に過ごせるよう、ゆっくり休んで体調を整えてください。

鍵盤ハーモニカが届きました。購入された方に、本日お渡しします。本体、唄口2種 ケースそれぞれに記名をお願いします。5月21日の音楽の時間に、鍵盤ハーモニカ講習を実施します。18日(金)までに、鍵盤ハーモニカを持たせてください。

鍵盤ハーモニカはロッカーに立てて保管しますので、

ここにも名前が書いてあると、わかりやすくなります。

消防写生会の絵を、廊下に掲示しながら、描いている時の子どもたちの姿が再び思い浮かんできました。連休明けの、急に気温が上がった5月7日。校庭で、自分の位置をきめ、「上手に書きたい」という気持ちで、無心に取り組んでいました。

描きあがった絵には、その子が一番描きたかったことが、しっかり書きこまれています。

写生といっても1年生のこの時期、見たことを見た通りに描くというよりは、感じたことを自分の心で描き、形にしていくということのほうが圧倒的に多いです。生活年齢で見れば、ほとんど2年生に近い1年生もいれば、年長組に年齢が近い1年生もいます。どの子ども「今しか書けない描き方」をしています。特に人物の描き方には、その子の「今」がよく表わされています。

子どもたちは(うまくかけないな)という葛藤もありながら、がんばって描いた絵を、ほめてもらいたい気持ちでいっぱいです。どうか、人とくらべてどう、もっとこう描けばいいのにとということではなく、「がんばってかいたんだね。すてきだね。」と言葉をかけてあげてください。自分が賞賛された言葉は、これから学習していく「鑑賞する力」としても、蓄積されていきます。

子どもたちにも、「上手、下手」という絵の見方ではなく、「描かれ方の素敵さ、その人にしか描けない世界に一つの作品ということ」に目を向けていけるよう指導していきたいと思っています。

製作活動に没頭する時間を持てるということは、とても幸せなことだと思います。特に高学年になって、生活が多忙になってくると、図工に時間は、至福のひとつときというお子さんが、たくさんいます。

小さい時に、自信をなくしたり、絵を描くのは嫌いとなったりしないよう、心がけてきたいです。

作品が仕上がった時、「ねえ、今日これ持って帰っていい？」と子どもがたずねてくれる時、(きっと作品に満足しているんだな)、「こんなのできたよ」とおうちの人に見せたいのだろうな)と感じます。そして、作品を大切に受け止めてくださるおうちの方がいらっしゃるからこそ、「持って帰りたい」と思うんだろうなと、温かい気持ちにさせられます。